

「THE シガパーク」に関する 取組について

滋賀県 土木交通部 都市計画課 公園魅力向上推進室

1. はじめに

コロナ禍において、身体的・精神的に閉塞感が蔓延した際、公園が県民にとって大切な息抜きの場所になり、いわゆる三密を避けることができるオープンスペースとして公園の価値が見直されるきっかけとなりました。さらに、ストレスの多い現代社会において、公園は「心のオアシス」としても重要な存在意義を持つことが再認識されています。

一方で、滋賀県内には都市公園や自然公園、条例に基づく公園などさまざまな公園が存在していますが、十分に連携ができていないことが課題となっていました。

そこで、知事のリーダーシップにより、県の公園を所管する各部局が、法や枠組みにとらわれず、連携して公園の価値と魅力を相乗的に向上させるため、当公園魅力向上推進室が事務局となつて「しがの公園」魅力向上推進会議」を令和5年5月に設置しました（同年8月に「THE シガパーク推進会議」（以下、「推進会議」という）に改称）。

推進会議では、県を琵琶湖を中心とした一つの大きな公園「THE シガパーク」と捉え、2030年に目指す姿を「すべての人の憩い・交流・体験の場となり、子どもたちが美しい自然の中で遊び、



図-1 「THE シガパーク」のイメージ



図-2 THE シガパーク MAP

表－１ THE シガパークの公園と所属

公園名	所属名
希望が丘文化公園	文化スポーツ部・文化芸術振興課
安土城考古博物館（近江風土記の丘）	文化スポーツ部・文化財保護課
彦根総合スポーツ公園	文化スポーツ部・スポーツ課
矢橋帰帆島公園	琵琶湖環境部・下水道課
近江富士花緑公園	琵琶湖環境部・森林政策課
自然公園（湖岸緑地など）	琵琶湖環境部・自然環境保全課
びわ湖こどもの国	子ども若者部・子ども若者政策・私学振興課
陶芸の森	商工観光労働部・イノベーション推進課
都市公園（びわこ地球市民の森、びわこ文化公園、奥びわスポーツの森、湖岸緑地など）	土木交通部・都市計画課

学ぶことができる場となる、水と緑と人でつながる公園」としました（図－１，２）。推進会議は、現在５部９課で構成しています（表－１）。

２．「THE シガパーク」の３つの視点と取組方針

目指すべき「THE シガパーク」の姿を明確にし、関係者間で共有するために、「THE シガパーク」が目指す姿を「滋賀県全体が一つの大きな公園であるかのように水・緑・人でつながっており、県民をはじめとした滋賀県に生きるすべての生き物の暮らしと心を豊かにしている」と決めました。さらに、この目指す姿を実現するための「３つの視点」を設けることにしました（図－３）。

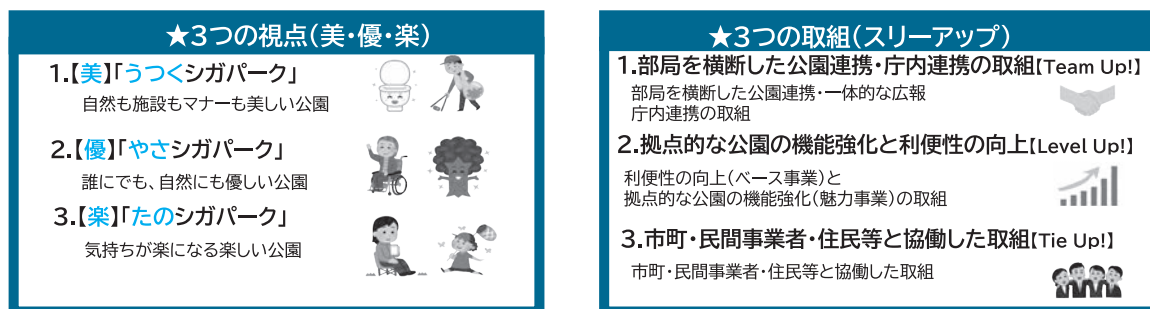
まず一つ目は「美」の視点、「うつくシガパーク」です。これは、琵琶湖をはじめとした滋賀県の恵まれた自然を活かした景観の美しさ、気持ちよく公園を利用してもらうためのトイレなどの公園施設の美しさ、そうした美しさを維持するための利

用マナーの美しさなど、さまざまな点で「美しい公園」を目指すものです。

二つ目は「優」の視点、「やさシガパーク」です。これは、多種多様な人が利用する公園だからこそ、子どもから高齢者、障害者や外国人を含めた誰もが利用しやすい、誰にとっても優しい公園を目指すというものです。それは人間に対してだけではなく、動物をはじめ鳥や虫、草花などの生き物を含めた滋賀県に生きるすべての生き物、それを育む豊かな自然に対しても優しい公園でありたいと考えています。

三つ目は「楽」の視点、「たのシガパーク」です。これは、訪れただけで気持ちが楽になり、楽しい時間をたっぷり過ごすことができる、「楽しい公園」を目指すというものです。特にコロナ禍にあって、公園のようなオープンスペースは「心のオアシス」としての役割を果たしました。子どもの遊び場としての楽しさだけではなく、訪れたすべての人の気持ちを楽にする公園を目指します。

さらに、これら「３つの視点」で取組を進める



図－３ THE シガパークの３つの視点と取組方針

にあたっての方向性を「3つのアップ」で整理しています（図－3）。

一つ目は部局を横断した公園連携・一体的な広報・庁内連携の取組を進める「チームアップ」、二つ目は拠点的な公園の機能強化と利便性の向上を行う「レベルアップ」、三つ目は市町・民間事業者・ボランティア団体等と協働した取組を進める「タイアップ」です。

この「3つの視点」と「3つのアップ」を組み合わせることで、「THE シガパーク」の実現に向けた目的の共有と、手段の類型化を行うことができます。それにより、それぞれの部局で行っている取組を他の部局で横展開することや、別々の部局で行っている類似の取組を連携して行いやすくなると考えています。

3. 「THE シガパーク」取組状況

(1) チームアップ

チームアップでは、部局横断で一体的に取り組み、パンフレット・動画作成やSNSを活用した広報やイベント開催等を行っています。チームアップの取組としては、次のとおりです。

① パンフレット作成

これまで各公園のパンフレットは公園ごとに作成されていましたが、初めての取組として、県営

の公園を一つに束ねた「THE シガパーク」のパンフレットを作成しました（図－4）。

シガパークのさまざまな特徴を持った11カ所の公園を、次の4つのテーマに沿って紹介しています。一つ目は自然に囲まれて、色んな体験が楽しめる、二つ目は文化・芸術と歴史に触れ、ゆっくりくつろぐ、三つ目は子どもと一緒に、遊びもスポーツも楽しめる、四つ目はびわ湖の開放感を、思いっきり満喫する、です。

また、THE シガパークを世界へ発信し、インバウンドにも対応するため、英語版パンフレットも作成しています。

② ロゴマーク・公式キャラクターの作成

「THE シガパーク」のロゴマークを作成しました。公園に関係するキャラクターを、びわ湖・河川の『水』、山、木、芝の『緑』、公園を彩る『花』、外遊びの象徴の『太陽』、人、自然・公園への愛情の『ハート（愛）』でマーク化しています（図－5）。



図－5 THE シガパークロゴマーク

キャラクターのグループ名・各キャラクターの名前を募集しました。応募いただいた98件の中から推進会議で5案の候補を選定し、一般投票により名前を決定しました（図－6）。



図－4 THE シガパークパンフレット



図－6 グループ名・キャラクター名

③ 公式 Instagram の開設

THE シガパーク各公園の四季折々の写真や動画のほか、イベント情報を掲載するなど効果的な広報を実施するため、公式 Instagram を開設し発信しています（図－7）。



図－7 Instagram, 二次元コード

④ THE シガパーク MOVIE の作成

動画募集企画「みんなで作る！ THE シガパーク MOVIE 投稿キャンペーン」を開催しました。＃（ハッシュタグ）をつけて投稿してもらうことにより、SNS で THE シガパークの認知度を高めつつ、県民から集まった動画を素材に THE シガパーク MOVIE を作成することができました（図－8）。



図－8 THE シガパーク MOVIE

⑤ THE シガパークのイベント開催

「THE シガパーク」を発信するイベントとして、県全体の公園の魅力を体感してもらえるスタンプラリーや、「自慢したくなる滋賀の公園」をテーマとしたフォト＆ムービーコンテストを開催しました（図－9）。

いずれのイベントも、県内のさまざまな公園の魅力、取組を広く知ってもらうきっかけとなりました。



図－9 イベントのチラシ

(2) レベルアップ

レベルアップでは、公園の機能強化と利便性の向上を行うハード整備が対象になり、「ベース事業」と「魅力事業」の両輪で取り組んでいます。

「ベース事業」は、基本的な共通施設の施設整備とし、トイレ・駐車場・看板等の公園としてのおもてなし施設を対象に各部局が共通で取り組んでいます（写真－1）。

また、湖岸緑地（都市公園）の草津市～野洲市区間の駐車場案内看板を統一、更新しました（写真－2）。湖岸沿いにある公園を一体的に「一つの湖岸公園」と考え、今後は他部局の湖岸沿いの園地（自然公園）にも共通の看板を設置する予定です。

「魅力事業」は、各公園の特徴的な魅力を高め



写真－１ 老朽化しているトイレ・駐車場・看板



写真－２ 湖岸緑地の共通看板

るための施設整備で、各部局が必要に応じて個別に取り組むものとしています。

例えば、若者を中心に人気の高まるスケートボードを本格的に楽しめる場所の整備として、春日山公園スケートボードエリア（写真－３）、奥びわスポーツの森スケートボードパーク（一部エリアを除く。写真－４）をオープンさせたことで、各公園の特徴的な魅力を高めることにつながりました。



写真－３ 春日山公園スケートボードエリア

(3) タイアップ

タイアップでは、企業やボランティア団体との連携や公園への寄附（個人・企業）等に取り組んでいます。

タイアップの取組の一つとして、「民間事業者等との協働」を広げていくため、企業の皆さまと県内のさまざまな公園で、いま「公園を使ってできること」、「公園のためにできること」を共有し、もっと「使いやすく」、「支えやすく」するにはどうすべきか？を一緒に考え、しなやかに公園を使いこなす仕組みをととのえ、三方良しの公園を一緒に育てていく「きっかけづくり」を目指す「THE シガパーク企業フォーラム」を開催しました（写真－５）。フォーラムには33社に参加



写真－４ 奥びわスポーツの森スケートボードパーク

いただき、4社の連携事例（「公園をつかう」、「公園を支える」）発表や各公園管理者のブースを設けて、企業との交流会等を行いました。

また、タイアップを進めていくため、企業とシガパークの協働の形を提案する「THE シガパーク」公民連携のご案内を作成しました（図－10）。



写真－5 THE シガパーク企業フォーラム



図－10 THE シガパーク・公民連携のご案内

4. THE シガパークビジョンについて

県民等と一緒に目指す方向を定めることで、THE シガパークを県民等との共創による取組（みんなでつくる THE シガパーク）に深化させるため、これまでの取組内容を踏まえて、利用者・民間事業者の声や学識経験者の意見を聞きながら、令和7～8年度で「THE シガパークビジョン」を策定していきます。

「THE シガパークビジョン」では、滋賀県の公園のポテンシャルを再発見し、人々の暮らしを豊かにする「THE シガパーク」の3つの視点を踏まえた「将来あるべき姿」や「基本理念」等の長期的な構想をとりまとめ、3つのアップの取組の行動計画となる「重点プロジェクト」、「段階的な

目標」、「ロードマップ」などの短期・中期計画をとりまとめます。

5. おわりに

滋賀県は、多様な特徴を持つ魅力的な公園に恵まれている自治体だと言えます。

本稿で紹介した公園の魅力向上の取組では、「滋賀県の公園には魅力がないから魅力のある公園を一から作っていく」というわけでは決してなく、部局間・公園間の連携により、滋賀県の公園の埋も

れている魅力を発掘し、さまざまな人に知ってもらえるように発信していくことが重要だと考えています。

まずは、県の所管する公園の連携からスタートしましたが、滋賀県内の市町・民間が管理する公園にも素晴らしく魅力的なところがたくさんありますので、いずれは市町や民間とも連携を深めて「THE シガパーク」を広げていきたいと思っています。

令和8年度からは、滋賀県の公園の魅力をさらに東ねて THE シガパークを推進すべく、組織改編により、5部9課のうち5課が集まり、「THE シガパーク推進課」が新設されることとなりました。これからは「滋賀県を公園県に！」を目指して尽力しますので、「THE シガパーク」をよろしくお願いします。